

心 臓 血 管 外 科



心臓血管外科部長
渡辺 徹雄

診療内容と実績

心臓血管外科では年間170件ほどの手術を施行しており、症例数は年々増加してきています。

冠動脈バイパス術、僧帽弁形成術、大動脈弁置換術などの開心術が50例程度、ほかに胸部大動脈瘤手術を含めた血管手術を年間約120例程度施行しております。腹部大動脈瘤が最も多く(ステントグラフトが3/4を占めています)、PADに対するバイパス手術(distal bypassを含む)、血管内手術、上・下肢、SMAなどの血栓塞栓症に対する手術、腎動脈瘤、下肢静脈瘤に対するアブレーション手術などを行っており、また血管外傷に対する手術を施行しています。

研修医の先生方にも積極的に術者を担当して頂くようにしています。

プログラムの目的と特徴

心臓外科、血管外科両分野の心臓血管外科専門医修練指導者が在籍しており、両分野のエキスパートによる指導、教育を受けられます。また、血管内治療にも積極的に取り組んでおり、循環器内科、放射線科とも協働で治療を行っており、心血管インターベンション治療学会専門医、IVR学会専門医からの指導も受けられます。

まずは外科専門医習得し、その後心臓血管外科専門医取得を目指して頂きますが、その間にステントグラフト実施医や下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医などの資格も習得していただきます。

心臓血管外科医として必須の基本手技習得は言うまでもなく、術者としての経験を持ってもらう事にも積極的に取り組んでいます。

外科とも協働で活動していますので、これまでの一般外科の経験内容等を気にする必要はありません。

研修内容と到達目標

■短期研修

心臓血管外科疾患の病態、手術適応、手術手技、体外循環などの基本的知識を習得する事。心臓血管手術への助手としての参加の他、急性動脈閉塞症、下肢静脈瘤など基本的手術、血管内治療を術者として経験する。

■1年研修

心臓血管外科専門医として必要な基本的な考え方、および基本手技を習得することが目標。短期研修の内容に加え、初期研修医を指導する能力を身に付け、入院患者を統括管理する能力を身に付ける。

■2年研修

1年研修の内容に加え、腹部大動脈瘤手術の術者など更にステップアップした専門的修練を行う。技術や知識の習得のみならず、心臓血管外科医として必要な適切かつ迅速な判断を瞬時にする力を身に付けていく。